Bookstart Newsletter

ブックスタート・ニュースレター

2019 秋 No.66

大阪府熊取町

第1特集

絵本を通じた「切れ目ない子育て支援」

～大阪府熊取町の取り組みから～

「切れ目ない子育て支援」という言葉をよく聞くようになりました。

妊娠期から出産、子育て期…と親子への継続した支援に地域全体で取り組み、これまでの事業をさらに充実していこうとする自治体が増えてきています。

大阪府熊取町では、「熊取町子ども・子育て支援計画」を策定し、母子保健や子育て支援担当部署が中心となって切れ目ない支援に取り組む一方、図書館でも「熊取町子ども読書活動推進計画」に本を通じた子育て支援を大きく位置付け、住民や関係機関と連携し、子どもの成長に応じた様々な事業を行ってきました。

その具体的な取り組みをご紹介します。

P.2へつづく

第2特集 P.6 ブックスタート研修会in鹿児島／広島 開催報告

ケーススタディ 大阪府熊取町

熊取町のブックスタートは図書館を中心に、子育て支援課（母子保健担当部署）、熊取文庫連絡協議会※（以下、文庫連）が連携し、２００２年から４か月児健診で実施しています。

※熊取文庫連絡協議会
町内の文庫運営者による団体。１９８２年の発足以来、本と子どもをつなぐ様々な事業を展開。図書館建設にも準備段階から深く関わった。

安心して子育てができる町に

大阪の都心部や関西国際空港へのアクセスが良く、豊かな自然環境も併せ持つ熊取町では、年間約２８０人の赤ちゃんが誕生しています。

ブックスタート事業を検討し始めたのは２０００年秋。少子化や核家族化が進む中、熊取町でも育児への不安や孤独感を抱える保護者が増加していました。図書館、子育て支援課、文庫連の三者は、子どもとのふれあいの時間を自然に生み出せる「絵本」を手渡すこの事業を通じても、保護者が安心して楽しく子育てができるような支援が行えるのではないかと考え、その実現に向けて準備を進めました。

ブックスタート事業から始まる切れ目ない、総合的な取り組み

育児の悩みや必要な支援、親子で楽しめる絵本などは、子どもの成長とともに変化していきます。ブックスタートの後も親子に絵本と親しんでもらうためには、年齢にあわせた情報や機会を継続的に提供することが必要です。そこでブックスタートを最初の機会として、その後も絵本を通じて親子を支援していく切れ目ない、総合的な取り組みを考えていくことにしました。

当時の図書館は開館してまだ数年。児童サービスは幼児以上を対象としたものが中心で、赤ちゃん連れの親子を受け入れる態勢は十分とは言えない状況でした。そこで、まずは１歳未満を対象に、わらべうたや絵本の読みきかせを楽しむ催し「あかちゃんとあそぼう」（事前申し込み制）を文庫連とともに開始しました。また、文庫連が以前から行っていた４か月児健診での絵本の紹介などを図書館職員が引き継ぎ、直接図書館のＰＲも行うようになりました。

すると、徐々に赤ちゃん連れの親子の来館が増え、「あかちゃんとあそぼう」は受付開始からすぐ満員になるほど人気の催しに。子育て中の保護者が赤ちゃんと一緒に出かけられる場所を求めていることや、直接情報を届けることの大切さを改めて認識することとなりました。

「あかちゃんとあそぼう」は、現在事前申し込み不要の「あかちゃんの時間」に
（写真提供：熊取町）

こうした経験もふまえ、町の様々な場所で、成長に応じた絵本の情報や機会の提供ができるよう、検討を進めていきました。

そして、２００２年４月に４か月児健診でブックスタートを開始するとともに、１歳７か月児健診で文庫連による絵本の読みきかせ、３歳６か月児健診で図書館職員による絵本や図書館の案内を実施。また４～５歳児を対象に、文庫連が保育所に出向いて、おはなしや絵本の読みきかせなどを行いました。その後も、見直しや充実を図りながら、現在は妊娠期から乳幼児、小学生へと切れ目ない事業を展開しています。

絵本を通じた子育て支援事業

住民と連携し、年齢に応じた様々な事業を実施しています。（ ）は実施担当

◆**４か月児健診でのブックスタート**（図書館／文庫連／子育て支援課）
図書館職員と文庫連のスタッフが、一組ずつの親子に絵本を紹介し、プレゼント。そして保護者に「絵本には子育てのヒントがたくさんあって、親子をつなぐコミュニケーションのツールとして使えるもの」ということを伝えている。また、親子の状況や保護者の希望を聞きながら、子育て支援情報も紹介。

◆**あかちゃんの時間**（図書館／協力：文庫連）
０～１歳向けにわらべうたや絵本を楽しむ会。親どうしが交流する時間も設け、仲間づくりの場にも。

◆**出前あかちゃんの時間**（図書館）
子育て支援施設に図書館職員が出向き、図書館で行っている「あかちゃんの時間」を実施。

◆**マタニティ＆ママ♪ハッピーコンサート／赤ちゃんといっしょに♪初めてのコンサート**（図書館／講師：ひよこ会）
妊娠中や子育て中のママ、赤ちゃんとその家族向けに、ピアノの演奏、子守り歌などを楽しむ会。

◆**親子でリトミック**（図書館／講師：ひよこ会）
０、１、２歳向け。音楽を通して親子のコミュニケーションを深める。絵本の紹介も。

◆**こぐまタイム**（図書館）
２～５歳向け。絵本の読みきかせ、手あそび、かみしばいを楽しむ。

◆**おはなし会**（図書館）
５歳くらいからを対象にした、ストーリーテリングと絵本の読みきかせの会。

◆**かみしばいの会**（図書館）
子ども～大人向け。

◆**家庭・地域文庫、保育所（園）文庫**
家庭や地域の集会所、保育所（園）等に本を常設し、「本のある遊び場」として運営。町内には６文庫開設。

◆**おはなしキャラバン**（文庫連）
文庫連が、保育所や認定こども園の４歳、５歳のクラスに訪問して、おはなしや絵本の読みきかせを実施。すべての町立小学校でも27年間継続して実施。

◆**年齢別リーフレットを配付**（図書館）
子どもの成長に応じて５種類のリーフレットを作成。すべての親子に届けられるよう、出生届提出時と４か月児、１歳７か月児、３歳６か月児の健診時に手渡し、健診のない５歳児には、保育所などを通じて配付。

内容も、絵本の紹介にとどまらず、わらべうたや行事の案内、読みきかせのＱ＆Ａなどの情報を、きめ細かく届ける。

写真やイラストで分かりやすく紹介

■切れ目のない支援事業（住民との協働による）

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳～
年齢に応じて参加できる事業	出前あかちゃんの時間					
	ブックスタート（4か月児）					
	あかちゃんの時間		こぐまタイム／おはなし会／かみしばいの会			
	親子でリトミック 0歳/1歳/2歳					
	家庭・地域文庫、保育所（園）文庫					
					おはなしキャラバン ※小学校でも実施	
	マタニティ＆ママ♪ハッピーコンサート / 赤ちゃんといっしょに♪初めてのコンサート					
リーフレット配付	●出生届提出時 ●4か月児健診 ブックスタート	●1歳7か月児健診		●3歳6か月児健診		●5歳児 保育所（園）・認定こども園 幼稚園で配付

〔実施場所〕 子育て支援施設　保健センター　図書館　文庫　保育所（園）・認定こども園・幼稚園

VOICE

図書館
熊取町立熊取図書館
司書
髙月 哉子 さん

図書館が「子どもの育ちと親の子育て」を支援する拠点のひとつに

文庫連、子育て支援課、図書館が、ブックスタートを開始するための研修や、フォローアップ事業の実施などの準備に充てた１年間で、お互いの活動や考え方をより理解することができました。その中で、部署や立場は違っても「この町で、子どもたちが健やかに育ってほしい」という根本的な思いは皆一緒だったということも、互いに再確認することができ、信頼関係や協力関係を強めることにもつながりました。

「熊取町子ども・子育て支援計画」では、子どもの育ちと親の子育てを支援する拠点のひとつとして図書館の活用が位置付けられ、親子が気軽に集える場になることも求められています。

そのような中、町が実施した住民アンケート（就学前児童の保護者）では、町内の様々な子育て支援サービスの中でも、図書館の乳幼児向け行事の認知度が一番高い結果となりました。ブックスタートの機会だけでなく、その後の健診でも継続的に情報を届けたり、年齢に応じて参加できる行事があることも利用のきっかけとなっています。こうした取り組みを続けてきたことで、図書館が親子にとって身近な存在になっているのではないかと思っています。

VOICE

保健師

熊取町子育て支援課
保健師
森 久仁江 さん

継続的な支援で絵本が身近なものに

ブックスタートを検討し始める前は、健診の中でスムーズに実施するためにどうすれば良いのかを話し合いました。そして、親子のかかわりを、より楽しく深めるためのツールのひとつとして絵本を活用してもらえればと考えました。

三者で準備を重ね、「一組ずつていねいに対応していこう」と開始したブックスタートでは、スタッフのやさしい読みきかせに赤ちゃんも保護者も笑顔になり、「こんなふうに絵本を使って楽しんだらいいんですね」という声も聞かれるなど、保護者の不安がやわらいだり、ホッとできる場になっています。

また、図書館職員や文庫連のスタッフに、保健師が見ていない場での親子の様子を見てもらえ、気がかりな親子の情報なども共有できるので、健診後の親子への対応につなげられる良さや安心感もあります。

保健センターには図書館のリサイクル図書を利用した絵本コーナーがあり、ブックスタート以降の健診でも、親子が待ち時間に絵本をひらいて楽しむ様子が見られます。また、保護者と子どもの会話の中でも、絵本のお気に入りのフレーズを聞くこともあります。家庭の中だけでなく、様々な機会で絵本に触れることを通して、町の親子にとって絵本が身近なものになり、子育ての中で活用されていることを実感しています。

おわりに

成長に応じて参加できる行事を行うことは、町の中に親子が安心して出かけられる居場所を増やすことになりました。さらに関係者が連携し、互いの事業や支援の内容をよく知ることで、一組一組の親子のニーズに合った支援を紹介することができ、保護者の子育ての不安解消や、町の中で子どもが健やかに成長していくことにもつながっています。

図書館や文庫などが行う親子への絵本の取り組みは、本と親しむ環境づくりとしての役割だけでなく、切れ目ない子育て支援として位置付けられています。絵本を通じて親と子を、さらに親子と地域をつなぎ、子育てしやすい地域をつくることができる、その可能性を熊取町の取り組みから強く感じることができました。

熊取町の皆さん

VOICE

文庫

熊取文庫連絡協議会
代表
森崎 シヅ子 さん

ブックスタートでは、目の前の親子に「今」必要な情報を伝える

図書館や文庫では、子育て中のすべての保護者に出会える機会はなかなかありません。でも、初めての集団健診である 4 か月児健診は、ほぼ 100％の親子に直接会える機会です。そうした貴重な機会だからこそ、ブックスタートでは一組ずつの親子と子育ての話をする場にしようということになりました。

ブックスタートでは、「今日は健診お疲れさまでしたね。赤ちゃんのお名前は？」と声をかけます。親子の状況は本当に人それぞれなので、保護者の表情や声の調子などからも「お母さんは疲れていたり、子育てに悩んだりしていないかな」と、その様子に気を配ります。そして、様々な支援の中から必要と思われる情報を選んで伝えます。

ブックスタートですべての情報を届けなくても、町では継続的に情報提供の機会を用意しているので、「今、目の前にいる保護者」に「今、必要な情報」を伝えられたら良いのです。

図書館の行事や文庫、子育て支援施設の様子を写真で紹介したシートを見せながら、「こんな感じでやっているから、気軽に参加してみてね」と伝えたり、「家が〇〇地区なら、ここの文庫が近いね。あちらにいる〇〇さんが運営している文庫だから行ってみるいいよ」と、その場で紹介したりすることもあります。まずは保護者が安心して、「この人がいるところなら行ってみようかな」と思ってもらえるように伝えることを心がけています。

転入間もない人や、近くに親や相談できる人がいなかったり、身内よりも他人の方が相談しやすいという保護者もいます。昔で言う世話好きのご近所さん的な役割の人が必要になってきているのだと思います。

保護者には「何かあったら、図書館でも、保健師さんでも、保育所でも、熊取町はどこの窓口に行っても大丈夫。ホームスタート※ も利用できますよ。相談したいことがあれば、受け止めてくれるところがたくさんあるからね」と伝えています。
（※家庭訪問型子育て支援事業）

「おはなしキャラバン」は子どもたちが親や保育士以外の大人と出会う場に

文庫連のスタッフは毎月町内の保育所などに出向き、おはなしや絵本の読みきかせなどを楽しむ「おはなしキャラバン」を行っています。就学前の子どもが、親や保育士以外の大人と交流する機会はあまり多くありませんが、「おはなしキャラバン」は同じ地域に暮らす人と出会う機会にもなっています。毎回同じスタッフが訪問するので、子どもたちとの関係も少しずつ築かれていき、彼らの成長にも寄り添っていけるのです。絵本を借りたけれど家で読んでもらえなかったという子どもがいたら、スタッフが一緒に読んだり、子どもの発した言葉や様子などを保育士に伝え、共有しています。

町内のスーパーで「あ、キャラバンのおばちゃん」と子どもから声をかけられ、保護者とそこで初めて顔を合わせて、つながりができていくこともあります。どこで声をかけられるか分からないので、疲れていても、外出時はいつも笑顔でいるようにしているんですよ。

各地では こんな取り組みも！

熊取町以外にも、親子の視点にたったアイデアや他機関との連携により、ユニークな取り組みをしている自治体があります。

民間と連携

「書店」や「NPO」と協働

神奈川県茅ヶ崎市

地元書店やまちづくりに携わる NPO とともに「本がだいすきプロジェクト ちがさき」を開始。図書館でのイベントをはじめ、書店主催のおはなし会（写真左）や NPO とのタイアップ企画など、官民協働でプロジェクトを推進しています。

まちの様々な場所で

「子育て支援施設」や「病院」に絵本を

東京都三鷹市

親子がよく足を運ぶ子育て支援施設や病院に、図書館から「絵本パック」（写真左）を団体貸し出し。また、子育て支援施設での出前図書館（写真右）も行い、絵本や育児書の貸し出しのほか、絵本選びの相談等にものっています。

親子で交流

「ブックスタート同窓会」を開催

大分県玖珠町

前年度生まれた子どもと保護者等を対象に、母子保健推進協議会が年 2 回イベントを開催。親子が知り合う場になるだけでなく、家庭での読みきかせの様子を知る機会にもなっています。

図書館で

「赤ちゃん向け絵本パック」を用意

熊本県菊陽町

赤ちゃん向けの絵本 3 冊をセットにした、貸し出し用バッグを用意。「絵本選びの参考にもなる」「 ゆっくり絵本を選ぶ時間がないので助かる」と保護者に好評です。

研修会報告

ブックスタート研修会 in 鹿児島／広島

6月、鹿児島県と広島県でそれぞれブックスタート研修会を開催。図書館、母子保健担当課、子育て支援担当課の職員やボランティアなど、県内外から多くの関係者が集い、活発な意見交換や交流が行われました。

◆鹿児島研修会
6月4日　参加者：57名
かごしま県民交流センター

◆広島研修会
6月25日　参加者：45名
合人社ウェンディひと・まちプラザ

【プログラム】
午前　絵本作家 スギヤマカナヨさん 講演
NPOブックスタート 報告
午後　事例紹介
ワークショップ

ブログでもご紹介しています！QRコード▶

事例紹介

鹿児島県

◆霧島市
発表者：田邊智美さん（図書館）

2007年に1市6町で合併した霧島市。7～8か月児教室でブックスタートを実施しています。

おはなし会の参加者を増やすためのアプローチ方法を考えていた時に、生まれてくるすべての赤ちゃんと保護者に一対一でお話をすることができるブックスタートを知り、「これだ！」と思いました。保健師さんからは、ブックスタートの実施により7～8か月児教室の満足度が上がったという声も届いています。

質疑応答

「関係課とうまく連携をとるコツは？」「予算はどのくらいかかっている？」「ボランティアは有償？」などの質問が挙がりました。

宮崎県

◆小林市
発表者：窪谷江利子さん（図書館）
坂下実千代さん（ボランティア）

年に3回「選書委員会」を開催して手渡す絵本を決めている小林市。保育士や保護者代表も参加して選書しています。

選書委員会では、実際に絵本を手に取り、委員どうしで読み合います。保護者アンケートも参考に選書しています。

広島県

◆府中市
発表者：正畑光代さん（子育て支援センター）

府中市では、保護者の身近な相談役となる主任児童委員が、絵本を一組ずつ手渡します。

「一人で頑張り過ぎないでええんよ。いつでも相談してね」と笑顔で声をかけ、絵本を読み、真心を添えて丁寧に手渡します。親子がほっこりとしたひとときを過ごせる場になっています。

◆尾道市
発表者：槙麻美さん
（社会福祉協議会）

ボランティアや関係者みんなが、尾道に生まれた赤ちゃんの幸せを願っています。ブックスタートが、その思いを言葉にして絵本と共に親子に直接届ける場になっています。

全国でも珍しい、社会福祉協議会が事務局の尾道市。民間の組織であり、日頃から母子保健・医療・教育など関係機関やボランティアと連携して活動しているため、関係づくりがしやすいという立場を活かして事業に取り組んでいます。

ワークショップ

会場にはお菓子も用意

リラックスした雰囲気の中で会話がはずみます

『ブックスタートを行う意味を考える』

「ワールド・カフェ」という手法を使ってワークショップを開催。他市町村との交流を通じ、事業の意義や可能性を探りました。

ワールド・カフェって？

カフェのような雰囲気の中、テーマを決めて4～5人のグループで対話を行います。テーマごとにメンバーを交代。話し合ったことはテーブルに広げた模造紙に自由に書き込んでいきます。

あるグループの様子（鹿児島研修会）

自治体の異なる人、そして行政職員やボランティアなど、立場の異なる人どうしでグループを作り、交流しました。

テーマ① 子育ての現状について、保護者が大変だなと思うことは何ですか？

「身近に相談できる人がいない」「共働き家庭が多く仕事との両立が大変そう」などの意見が。

↓席替え

テーマ② どんな手助けや支援があれば、親子が幸せに暮らせると思いますか？

「男性も育児参加できるように働き方改革が必要」「世代間交流で気軽に相談できる場があれば」など話し合いが進みます。そんな中、「課題や対策ばかり考えているけれど、本当は子育てって苦しいものじゃなくて、楽しくて幸せなことですよね」という一言に、グループ全員深く頷きます。

↓はじめのグループに戻って

テーマ③ 私たちがブックスタートでできることは何でしょうか？

「子育てって本当は楽しいもの」という言葉を、前のグループから持ち帰って紹介したメンバーがいたことから、話が広がります。「ブックスタートで子育ての楽しさに気づいてもらえる」「自分から支援施設に出向けない人にこそ、関わりを持つことが必要」「健診でやっているから、すべての人に支援の手が届けられるのが良い」と、ブックスタートの可能性を語り合いました。

参加者の声

鹿児島

ブックスタートに関わる仕事をしていることを改めて嬉しく感じています。

他自治体の事例がとても参考になりました。

広島

ブックスタートの一番の目的は、みんなで幸せに暮らすことだと思いました。

講演

『赤ちゃんと紡ぐ絵本の時間』

絵本作家
スギヤマカナヨ さん

―絵本は、親子のコミュニケーションツールです

「お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん。周りにいる人たちが生の声で語りかけてくれる時間は、赤ちゃんにとって他では代えがたい幸せなひととき。“いつかの懐かしい”をつくってあげられるのは、子どもの時だけ。絵本でたくさんコミュニケーションをとってほしいです。」

＊講演録刊行予定です（2020年3月ごろ）

＼親子への対応に 役立つ情報満載！／

ブックスタート・スタッフガイド

をご活用ください！

ご請求は
自治体支援担当まで
《無料です！》

A5サイズ
32ページ
オールカラー

2018年4月発行の『ブックスタート・スタッフガイド』。多くの自治体から好評をいただき、およそ1万冊を全国各地にお届けしました。これまで当法人の無料資料は、関係機関に一部ずつご提供してきましたが、この冊子については、**自治体職員やボランティアなど、事業に関わる全スタッフの人数分をお送りできます**。どうぞお気軽にお問い合わせください。

「**親子から好意的**に受け止められる場面」と「**残念**に感じられる場面」をイラストで再現。スタッフが**配慮できること**を考えるきっかけに。

全国の事例を豊富に掲載。実践できそうな取り組みが見つかるかも……。

多くの写真で会場の様子が一目でわかります！

Q＆A コーナー

「保護者が早く帰りたがっている場合は？」「赤ちゃんが泣いている場合は？」など、会場でよくある**「こんなときどうする？」**に対応するためのヒントを掲載。

コラム コーナー

保護者の子育て環境の現状や、0歳児の発達について詳しく解説。**子育て支援の専門家**からのアドバイスも。

自治体からの 声

新しく関わるスタッフにも基本を伝える媒体になると思います。

事業を長く続けていると、時に活動がマンネリ化することがあるため、冊子を読むことで事業の目的を定期的に見直したいです。

伝えることばかりに懸命にならず、相手の気持ちに寄り添う大切さを改めて感じました。

マニュアルではなく、保護者への接し方や心遣いについても丁寧に書かれています。

コトコト ことのは

スタッフが出合った言葉

子ども好きですか？とよく訊かれることがありますが、僕はその質問がよくわかりません。
一口に子どもといっても、いろんな子がいるからです。子どもに「大人が好き？」って訊くでしょうか。

具体的な誰かの話ならイメージできるけれど、ただ「子どもが好きか」と訊くのはまるで「パンダが好き？」「キリンが好き？」って訊くみたいで、あまり人間的な感じがしないから、ときむらさん。私たちがブックスタートで出会う方々も、「お母さん」「お父さん」「赤ちゃん」である前に、お一人お一人であることを大切にしていきたいです。　＊『子ども、あなどるべからず』（きむらゆういち著 / 岩波ブックレット 728）より